

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：32828

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01969

研究課題名(和文) <ジェンダーに基づく暴力複合>の文化人類学的研究

研究課題名(英文) Cultural Anthropological Study of "Gender-based Violence Complex"

研究代表者

田中 雅一 (TANAKA, MASAKAZU)

国際ファッション専門職大学・国際ファッション学部・教授

研究者番号：00188335

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,300,000円

研究成果の概要(和文)：科研事業・研究成果公開促進費を受けて、2021年2月に『ジェンダー暴力の文化人類学』(472ページ)を昭和堂から出版した。編者は代表の田中雅一と嶺崎寛子である。序章を除いて3部、17章から成る。科研の分担者以外に、科研の研究会で発表した4名の若手研究者に寄稿をお願いした。21年度に3回の合評会が実施された。また書評が、『文化人類学』(86巻3号、2021年)に掲載された。本書によってジェンダー暴力の性質や種類が比較の観点から明示された。今後の課題として、ジェンダー暴力を扱う他領域との連携を探りたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

女性への暴力や性犯罪は、#Me Too運動の影響などからもわかるように、これまでにない社会的注目を浴びている。しかしながら、女性への暴力という言葉で多様な暴力の差異が無視されてきた。本プロジェクトで明らかになったのは、1女性だけに限らないこと、2当事者には暴力とみなされていない文化的な実践が存在すること、3さらに暴力とみなされても加害者に非はないと判断される懲罰的暴力が存在することなどである。こうした区別を考慮しない限り、ジェンダーに基づく暴力を解決することは難しい。また、欧米のディアスポラ社会に特有のジェンダー暴力についても考察した。

研究成果の概要(英文)：The major product of this project is a book titled Cultural Anthropology of Gendered Violence, edited by Masakazu Tanaka and Hiroko Minesaki (pp.472, Showado, 2021). It consists of three parts, and 17 chapters. In addition to the project members, 4 young scholars were invited to contribute articles. In 2021 three online meetings were held for discussing this book. One book review was published in Bunkajinruigaku (86-3). I think that the book could clarify a complex concept of gendered violence in a comparative perspective. The collaboration with people working on gendered violence and sexual crimes in different fields remains to be completed.

研究分野：文化人類学

キーワード：ジェンダー 文化人類学 地域研究 暴力 グローバリゼーション ディアスポラ社会

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

女性に対する暴力には、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント、ヘイト・スピーチ、性暴力、悪習とされる女性差別など、様々な暴力や差別が想定されていた。本研究では、こうした暴力を実証的な観点から再定義し整理する必要があると考えた。国内での暴力についての視点と、海外とくに第三世界における女性差別への視点とは明らかに温度差があった。異文化の差別的な事象が好奇心で捉えられ、さらに異文化への偏見や差別（野蛮な男性たち、可哀想な女性たち）を助長するという傾向は、文化人類学において繰り返し指摘されてきたことである。しかし、これを無知に由来する偏見と片付けるのでは、現地の差別や暴力に目を瞑ることになりかねない。異文化と自分化を結びつけるような視点が必要である。このため、まずは実証的な視点から研究を深め、女性に対する暴力や差別を文脈化する必要があった。なお、当初は女性への暴力を念頭においていたが、その後男性をも含む視点として「ジェンダー暴力」という概念を提案した。

2. 研究の目的

本研究は、研究期間を4年とし、文化人類学やジェンダー研究の視点から「ジェンダーに基づく暴力複合」とそれが支持する社会体制や思想について、地域的文脈を尊重しつつ、より包括的かつ通文化的視野から分析することを目的とする。主たる対象地域は、北西インドから中東、さらに地中海にかけての地域と、スペイン文化の影響を受けた中南米を中心とする。さらに、これらの地域出身が移住先の欧米で形成しているディアスポラ（移民）社会を研究対象とする。本研究は、この種の暴力が、たんなる伝統文化の表出ではなく都市化、市場化、グローバル化の影響を受けたきわめて現代的な現象であるという観点から、その背景と実態の把握を行う。海外の専門家や運動家と緊密な連携を維持し、解決の可能性を探る。

3. 研究の方法

本研究の方法は三つからなる。(1)各地域のフィールドワークによるデータ収集。(2)関連地域における民族誌の検討。(3)定期的な研究会による発表と討議。これらの方法による成果は、随時学会などで分科会（パネル）を組んだり、公開シンポを企画して社会に還元してきた。

4. 研究成果

科研事業・研究成果公開促進費を受けて、2021年2月に『ジェンダー暴力の文化人類学』（472ページ）を昭和田から出版した。編者は代表の田中雅一と分担者嶺崎寛子である。序章を除いて3部、17章から成る。科研の分担者以外に、科研の研究会で発表した4名の若手研究者に寄稿をお願いした。本書によってジェンダー暴力の性質や種類が比較の観点から明示された。今後の課題として、ジェンダー暴力を扱う他領域との連携を探りたい。

本プロジェクトで明らかになったのは、1女性だけに限らないこと、2当事者には暴力とみなされていない文化的な実践が存在すること、3さらに暴力とみなされても加害者に非はないと判断される懲罰的暴力が存在することなどである。こうした区別を考慮しない限り、ジェンダーに基づく暴力を解決することは難しい。また、欧米のディアスポラ社会に特有のジェンダー暴力についても考察した。

以下、『ジェンダー暴力の文化人類学』の目次を紹介する。*は本研究の非分担者である。

序章 ジェンダー暴力とは何か？（田中雅一・嶺崎寛子）

第 部「家族の名誉にかけて」

1 南アジアにおける強制結婚：規定婚、児童婚、非人間との結婚（田中雅一）/2 二重の暴力：ネパールにおける売春とカースト（藤倉康子）/3 名誉は暴力を語る：エジプト西部砂漠ベドウィンの血讐と醜聞（赤堀雅幸）/4 ジェンダー暴力の回避：エジプトのムスリムの試み（嶺崎寛子）/5 噂、監視、密告：モロッコのベルベル人にみる名誉と日常的暴力の周辺（齋藤剛）/6 復讐するは誰のため？：ギリシャのロマ社会における名誉をめぐる抗争（岩谷彩子）

第 部「国家に抗するジェンダー」

7 揺れ動くジェンダー規範：旧ソ連中央アジアにおける世俗主義とイスラーム化（和崎聖日）/8 抑圧された苦悩の可視化：韓国の烈女と鬼神（*澤野美智子）/9 ある「母」の生成：アルゼンチン強制失踪者の哀悼と変わりゆく家族（*石田智恵）/10 痛みと記憶：チリ・軍政下を生き抜く女性たち（内藤順子）/11 自由、さもなくば罪人：性の多様性をめぐるインド刑法の攻防（*山崎浩平）

第 部「ディアスポラ社会の苦悩」

12 名誉をよみかえる：イスタンブルの移住者社会における日常の暴力と抵抗（村上薫）/13
トランスローカルなジェンダー暴力：インド・パンジャブ出身女性の経験（東聖子）/14 暴
力と移動が交錯する生：メキシコにおける中米女性移民たち（佐々木祐）/15 揺らぐ家父長
制：ノルウェーのアラブ系難民女性の定住過程（辻上奈美江）/16 越境する「強制結婚」：ノ
ルウェーのパキスタン系移民女性とNGO活動（小牧幸代）/17 仕事・恋愛・暴力が交錯する
場：カラオケパブで出会うフィリピン人女性と日本人男性（*田川夢乃）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 田中雅一	4. 巻 93(2)
2. 論文標題 セクシュアリティ・ジェンダー体制とその宗教的攪乱：デーヴァダーシーと子宮委員長はるをめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 107-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20716/rsjars.93.2_107	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 534
2. 論文標題 ムハンマド皇太子の『改革』とジェンダー：後期レンティア国家における『管理された解放路線』のゆくえ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田中雅一・嶺崎寛子	4. 巻 82(3)
2. 論文標題 特集・ムスリム社会における名誉に基づく暴力 序	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 311-327
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.82.3_311	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 村上薫	4. 巻 82(3)
2. 論文標題 名誉解釈の多様化と暴力：イスタンブルの移住者社会の日常生活をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 328-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.82.3_328	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 嶺崎寛子	4. 巻 82(3)
2. 論文標題 名誉に基づく暴力を回避する：2000年代のエジプトを事例として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 346-366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.82.3_346	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤堀雅幸	4. 巻 82(3)
2. 論文標題 暴力のイデオロムとしての名誉：エジプト西部砂漠ベドウィンの血鬘と名誉殺人を事例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 367-385
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.82.3_367	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 82(3)
2. 論文標題 「アフガン・ガール」をめぐる眼差しの暴力：主体・表象・交差性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 386-394
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.82.3_386	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件(うち招待講演 17件/うち国際学会 6件)

1. 発表者名 小牧幸代
2. 発表標題 南アジアにおけるジェンダー暴力と女性の自立支援：消費社会化・グローバル化の中で
3. 学会等名 NPO法人「女性の家サーラー」主催公開セミナー、2020年3月3日、神奈川韓国会館(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中雅一
2. 発表標題 貞淑な女性とふしだらな女性
3. 学会等名 国際シンポジウム「アジアの女性」、2019年1月24日、成均館大学東アジア学院、ソウル市（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasuko FUJIKURA
2. 発表標題 Dealing with Marginality: Gender and Caste in Western Nepal
3. 学会等名 The Eighth Annual Kathmandu Conference on Nepal and Himalaya, Kathmandu（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤倉康子
2. 発表標題 痛みの記憶としての移動：西ネパールのダリット・コミュニティからインドへの出稼ぎ
3. 学会等名 南アジア学会第32回全国大会分科会「越境するジェンダー暴力：ローカルからグローバルへ」、慶應大学日吉キャンパス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東聖子
2. 発表標題 インド領バンジャープ女性移民の越境経験にみる暴力性
3. 学会等名 南アジア学会第32回全国大会分科会「越境するジェンダー暴力：ローカルからグローバルへ」、慶應大学日吉キャンパス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小牧幸代
2. 発表標題 オスロのバキスタン系移民社会と「強制結婚」：イトコ婚の実践をめぐって
3. 学会等名 南アジア学会第32回全国大会分科会「越境するジェンダー暴力：ローカルからグローバルへ」、慶應大学日吉キャンパス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤順子
2. 発表標題 痛みと記憶：チリ・軍政下を生き抜く女性たち
3. 学会等名 京都人類学研究会シンポジウム「いま、グローバルにジェンダー暴力を考える」、京都大学稲盛財団記念会館（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 旧ソ連中央アジアのジェンダー暴力：イスラームと世俗主義との間で
3. 学会等名 京都人類学研究会シンポジウム「いま、グローバルにジェンダー暴力を考える」、京都大学稲盛財団記念会館（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小牧幸代
2. 発表標題 オスロのバキスタン系移民社会におけるイトコ婚と暴力
3. 学会等名 京都人類学研究会シンポジウム「いま、グローバルにジェンダー暴力を考える」、京都大学稲盛財団記念会館（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小牧幸代
2. 発表標題 ノルウェーのパキスタン系移民社会と強制結婚
3. 学会等名 人間文化研究機構プログラム南アジア地域研究東京外国語大学拠点研究会、東京外国語大学・本郷サテライト（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤堀雅幸
2. 発表標題 趣旨説明
3. 学会等名 上智大学イスラーム研究センター主催公開シンポジウム「ディアスポラのムスリムたち：異郷に生きて交わること」上智大学（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中雅一
2. 発表標題 現代インド世界における売春・宗教・ジェンダー暴力
3. 学会等名 広島大学21世紀科学プロジェクト環境平和学公開講演会、広島大学東広島キャンパス（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中雅一
2. 発表標題 ムンバイの売春街に見る女性の自己管理、家族関係、女神との結婚
3. 学会等名 第51回南アジア研究集会、静岡県伊東市山喜温泉（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kaoru MURAKAMI
2. 発表標題 Reconsidering Honor: Everyday Violence and Social Position among Migrants in Istanbul
3. 学会等名 World Congress for Middle Eastern Studies Seville (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 嶺崎寛子
2. 発表標題 異文化表象とジェンダー：イスラム世界への「まなざし」のポリティクス
3. 学会等名 宇都宮大学生国際連携シンポ「中東理解連続セミナー」、宇都宮大学 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 赤堀雅幸
2. 発表標題 グローバル化するイスラーム
3. 学会等名 千葉県立木更津高等学校グローバル人材プロジェクト講演会、千葉県立木更津高等学校 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroko MINESAKI & Junko TORIYAMA
2. 発表標題 Rediscovering Gender as a Strong Analytical Tool for Resisting the Stereotypes of the Middle East
3. 学会等名 Korean Association of Middle East Studies, Seoul (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masayuki AKAHORI
2. 発表標題 Past, Present, and Future of Our Studies on Sufism and Saint Veneration
3. 学会等名 1st International Symposium of Kenan Rifai Center for Sufis Studies, Kyoto University "Islamic Studies and the Study of Sufism in Academia: Rethinking Methodologies," Kyoto University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤倉康子
2. 発表標題 西ネパールにおける不可触性・ジェンダー・暴力
3. 学会等名 ダリット・部落差別第2回研究会、近畿大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hi roko MINESAKI & Junko TORIYAMA
2. 発表標題 Rediscovering Gender as a Strong Analytical Tool for Resisting the Stereotypes of the Middle East
3. 学会等名 KAMES (Korean Accusation of Middle East Studies) Seoul (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 赤堀雅幸
2. 発表標題 グローバル化するイスラーム
3. 学会等名 千葉県立木更津高等学校平成29年度グローバル人材プロジェクト講演会、千葉県立木更津高等学校 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤倉康子
2. 発表標題 西ネパールにおける不可触性・ジェンダー・暴力
3. 学会等名 ダリット・部落差別第2回研究会、近畿大学（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 田中雅一・嶺崎寛子編、田中雅一、嶺崎寛子、赤堀雅幸、小牧幸代他多数	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 472
3. 書名 ジェンダー暴力の文化人類学：家族・国家・ディアスポラ社会	

1. 著者名 赤堀雅幸編、赤堀雅幸、小牧幸代、高橋圭、久志本裕子、新井和広、岡戸真幸	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上智大学イスラーム研究センター	5. 総ページ数 97
3. 書名 ディアスポラのムスリムたち：異郷に生きて交わること	

1. 著者名 村上薫編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 245
3. 書名 不妊治療の時代の中東：家族をつくる、家族を生きる』	

1. 著者名 田中雅一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 770
3. 書名 インド文化事典編集委員会編『インド文化事典』（「女性への暴力」執筆担当）	

1. 著者名 村上薫編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 79
3. 書名 中東における家族の変容（研究会調査報告書）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村上 薫 (MURAKAMI KAORU) (00466062)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター ジェンダー・社会開発研究グループ・主任研究員 (82512)	
研究分担者	東 聖子 (AZUMA MASAKO) (00735102)	近畿大学・国際学部・准教授 (34419)	
研究分担者	和崎 聖日 (WAZAKI SEIKA) (10648794)	中部大学・人文学部・講師 (33910)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	赤堀 雅幸 (AKAHORI MASAYUKI) (20270530)	上智大学・総合グローバル学部・教授 (32621)	
研究分担者	小牧 幸代 (KOMAKI SACHIYO) (20303901)	高崎経済大学・地域政策学部・教授 (22301)	
研究分担者	藤倉 康子 (FUJIKURA YASUKO) (20773782)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・連携研究員 (14301)	
研究分担者	辻上 奈美江 (TUJIGAMI NAMIE) (30584031)	上智大学・総合グローバル学部・教授 (32621)	
研究分担者	内藤 順子 (NAITOU JUNKO) (50567295)	早稲田大学・理工学術院・教授 (32689)	
研究分担者	嶺崎 寛子 (MINESAKI HIROKO) (50632775)	成蹊大学・文学部・准教授 (13902)	
研究分担者	岩谷 彩子 (IWATANI AYAKO) (90469205)	京都大学・人間・環境学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	齋藤 剛 (SAITOU TSUYOSHI) (90508912)	神戸大学・国際文化学研究科・教授 (14501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	佐々木 祐 (SASAKI TASUKU) (90528960)	神戸大学・人文学研究科・准教授 (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関